

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<https://www.sgepss.org/>

第 253 号 会 報 2025 年 5 月 15 日

目 次

会長就任にあたり 中村卓司	・・・1	Conductivity Anomaly (CA) 研究会	・・・12
副会長挨拶 清水久芳	・・・2	内部磁気圏分科会	・・・13
2024 年秋季年会プレスリリース論文紹介		太陽地球惑星系科学シミュレーション分科会	・・・14
「He 分光観測で探る上部熱圏における大気上 下間結合」西山尚典	・・・2	若手アウトリーチ活動 STEPLE 令和 6 年度活動 報告 吹澤瑞貴	・・・15
第 33 期役員選挙の結果	・・・3	第 33 回衛星設計コンテスト参加登録・作品募 集のお知らせ	・・・17
第 32 期第 7 回運営委員会報告	・・・4	訃報	・・・17
第 32 期第 8 回運営委員会報告	・・・6	学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール	・・・18
第 33 期第 1 回運営委員会報告	・・・8	SGEPSS カレンダー	・・・18
新会員システムについて	・・・8	賛助会員リスト	・・・19
第 157 回総会開催のご案内	・・・9	学会からのお知らせ	・・・25
学会費納入についてのお知らせ	・・・9		
2025 年秋季年会のお知らせ	・・・10		
分科会報告			
波動分科会	・・・11		

会長就任にあたり

第 33 期会長 中村卓司

このたび第 33 期（2025 年 4 月～2027 年 3 月）の会長に就任いたしました中村卓司です。現在、国立極地研究所の教授、総合研究大学院大学（SOKENDAI）の教授を務めており、日本学術会議の会員（25 期・26 期）でもあります。地上からの電波および光による観測で、地表から下部熱圏までの大気の上下結合を明らかにすることなどを研究テーマにしております。また、昨年から ISC 傘下の国際学術組織 SCAR（南極研究科学委員会）の理事・副会長を拝命しております。本学会には 1989 年から会員としてお世話になっており、運営委員

（2011～2015 年）、評議員（2015～2023 年）、副会長（2023～2025 年）を務めてまいりました。

SGEPSS は、電磁気学・電磁波を用いて地球内部から宇宙空間までの地球惑星科学の基礎研究を行い、実社会への応用も対象とする学協会です。科学技術の進展に伴い、研究対象が拡大し、重要性も増しています。特に技術開発、観測、理論、モデリングなどの多岐にわたる研究手法を会員各位が駆使して研究を進める点が本学会の特徴です。最新の技術や手法の開発・活用では、アカデミアのみならず、様々な職種の優秀な人材育成に貢献しています。会員各位の活発な研究教育活動に改めて敬意を表したいと思います。

さて、IT 技術の進展、DX 化の流れの中、我々の学会も新たな対応が必要な状況です。秋学会・総会のハイブリッド化による多様な学会参加形態の

確保、刊行物や情報伝達、投票や各種申請のペーパーレス化、各種会合のオンライン化などデジタル化は多岐に及ぶかと思えます。アウトリーチでは、前期から開始したVTuber起用による研究紹介などは良い成功例と思いますが、さまざまなメディアやSNSなどを活用してさらに幅広く広報できればと願います。一方、DX化の持続性・継続性も課題です。本年度開始した会員システムの移行に関しては、当初はご不便もかけるかと思いますが、ご理解とご協力をお願いします。限られた予算とマンパワーでのDX化は課題も多いかと思いますが、運営委員の皆さんと知恵を絞って臨みたいと思えます。

思えば21世紀の第1四半世紀、とりわけ2020年代に入ってからには激動の連続でした。COVID-19の蔓延、大規模な武力衝突、各国での政権の交代と不安定化。頭の切替えがなかなか追いつかない状況です。一方で、我が国の少子高齢化と、賃金上昇を大きく上回る物価上昇など、大学や研究機関で研究・教育を進める我々研究者にとっては大変厳しい環境になりゆく状況です。今後の社会でますます重要となるSGEPSS分野において、継続的な研究教育活動を今後支える若手研究者の育成は、長期的な視点で取り組まないといけない最重要課題と言えるでしょう。若手研究者にとって魅力的な活動の場を提供するには、世代を超えた対話が重要でしょう。優秀な運営委員の皆様、学会員の皆様のご協力を得てぜひ元気なSGEPSSの将来を目指したいと存じますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

副会長挨拶

清水久芳

このたび、第33期(2025年4月~2027年3月)の副会長を拝命いたしました清水です。本学会には、1988年秋に金沢大学で開催された講演会への参加を機に長年にわたりお世話になっております。このたびの大役をおおせつかり、身の引き締まる思いとともに、不安と緊張を感じております。

学会の運営には、第24期から第26期(2007年4月~2013年3月)に運営委員として携わりましたが、この10年で運営上の課題や問題は大きく変化し、より多様化しているように思います。今後

の2年間でこれらを十分に理解し、本学会のさらなる発展に貢献できるよう尽力する所存です。

本学会では、固体地球深部から大気圏、電離圏、磁気圏、惑星間空間、太陽大気、さらには太陽系諸天体を対象に、多様な手法を用いた研究が進められています。これらの研究では、長期的な地磁気観測をはじめとする地球物理観測や、物質サンプルの実験的測定に加え、観測機器・測定機器の開発も重要な役割を担っています。これまで、本学会の会員に加え、気象庁地磁気観測所やさまざまな企業の熱意と尽力により、観測的・実験的研究が支えられてきました。しかし、社会の変化により、これまで当然とされてきたことが必ずしも継続できるとは限らない時代を迎えています。特に観測・測定機器の開発に関しては、蓄積された技術の適切な継承と、従来の観測・測定の継続が可能かどうか、不安を抱える会員も少なくないと思います。このような課題に対し、学会として何ができるのかを模索し、今後の方向性を探っていきたいと考えております。

改めまして、中村会長ならびに運営委員の皆様と協力し、微力ながら本学会の活動に貢献していきたいと考えております。皆様のご支援に加え、ぜひご助言を賜れば幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

2024年秋季年会プレスリリース 論文紹介

He分光観測で探る上部熱圏における
大気上下間結合

西山尚典

国立極地研究所

地球大気の高高度300~500 kmに位置する領域は上部熱圏と呼ばれ、宇宙空間との境界に位置するため、太陽活動の影響を強く受ける領域です。しかし、地上からのリモートセンシング手法が限られており、特に磁気嵐の影響を大きく受ける極域では、定常的な観測がこれまでほとんど行われていませんでした。このため、時間的に連続した観測を通じて、上部熱圏がどのような時間・空間スケールで変動するのか、その特徴や基礎的な物理過程を解明することが求められています。

本研究では、観測対象として高度 500 km 付近に存在する準安定状態のヘリウム ($\text{He}(2^3\text{S})$) に着目しました。この準安定ヘリウムは、基底状態 $\text{He}(1^1\text{S})$ が光電子等により励起されたもので、その寿命が上部熱圏では約 2 時間と比較的長いことから、トレーサーとして有効です (以下「準安定ヘリウム」を単に「ヘリウム」と記述します)。地球大気における波長 1083 nm のヘリウムの共鳴散乱光は、約 60 年前の IGY 期間中のモスクワで、磁気嵐に伴って観測された低緯度オーロラのスペクトル内で発見されました (Mironov et al., 1959)。

私たちはこのヘリウム発光を観測するため、最新の InGaAs 検出器を用いたイメージング分光器を開発し、極冠域に位置するスバルバル諸島・ロングイヤービン (北緯 78 度) にて定常観測を開始しました (Nishiyama et al., 2024)。2023 年 2 月 26 日に発生した中規模の磁気嵐において、ヘリウム発光が磁気嵐発生後わずか 1 時間以内に減少したことが観測されました。同時に、European Incoherent Scatter Svalbard Radar (ESR) による観測では、磁気嵐の発達に伴い、高度 100~120 km で電子温度が 1000 K、120~300 km でイオン温度が最大 3000 K に達していたことが示されました。さらに、E-F 領域の電子密度が 2 桁程度減少しており、典型的な電離圏の負相嵐の兆候が捉えられています。

これは、強い電離圏電場によって加熱されたプラズマが中性大気を加熱し、その結果、加熱された N_2 が高高度まで上昇したことを示唆しています。TIMED/GUVI による O/N_2 の観測や MSIS 2.1 モデルによる計算も、この解釈と整合的です。分光器で観測されたヘリウムの減光は、 N_2 が高度 500 km 付近まで 100 m/s 程度の速さで輸送され、衝突を介してヘリウムの基底状態への遷移 (quenching) を促進した結果と解釈できます。

一方で、磁気嵐中の減光期間中にも突発的なヘリウムの増光が複数回観測されました。ESR の同時観測では、これに対応する高度 100~300 km において電子密度の間欠的な上昇が確認されており、極域では光電子だけでなく降下電子がヘリウムの生成に寄与している可能性があることを示唆しています。以上の研究成果は、2025 年 5 月に米国地球物理学連合が発行する学術誌『Space Weather』に受理されました。さらに、最近の観測事例では、ロングイヤービンがカスプ領域に位置する時間帯においてヘリウムの突発的な増光が頻繁に起きて

いることが分かってきました。これは、太陽風中のアルファ粒子 (He^{2+}) や磁気圏内のヘリウムイオン (He^+) がジオコロナとの衝突によって中性化された結果との解釈でき、地球大気へのヘリウムの供給過程の定量的理解に繋がる可能性があります。

上部熱圏は、2022 年 2 月に Starlink 衛星 38 機が磁気嵐の影響で軌道投入に失敗しロストした事例からも明らかのように、低軌道衛星の運用にとって極めて重要な領域です (Haggood et al., 2022)。そのため、上部熱圏の変動過程の理解は、「宇宙天気予報」の精度向上や予測対象領域の拡大に大きく貢献することが期待されます。

また、1083 nm におけるヘリウム共鳴散乱光の観測は、ドイツや中国の研究グループによりライダーを用いた地上観測として実用化されており (Kaifler et al., 2022; Zhao et al., 2024)、火星や系外惑星の大気観測でも重要なターゲットとなっています。今後は、惑星観測・探査の研究グループとも連携しながら、ヘリウムの温度や速度情報の抽出といったリモートセンシング技術の高度化を目指していきます。

第 33 期役員選挙の結果

33 期役員選挙の投票が 1 月 24 日に締め切られました。その後、開票結果を元に、中村卓司新会長を中心とした会長枠の検討の結果、以下のように確定しましたのでお知らせします。

=== 選挙結果 ===

(1) 副会長 開票結果

投票者数 198

氏名 得票数

清水 久芳 44 当選

関 華奈子 24 次点

石井 守 17

吉川 顕正 13

(以下は、11 票以下)

(2) 評議員 開票結果

投票者数 196

順位 氏名 得票数

前会長 塩川 和夫 (自動的に当選)

1 関 華奈子 90 当選

2	中川 朋子	82	当選
3	齋藤 義文	79	当選
	清水 久芳	74	(副会長に就任)
4	石井 守	71	当選
5	山本 衛	70	当選
6	吉川 顕正	67	当選
7	大村 善治	64	当選
8	橋本 武志	62	当選
9	山崎 俊嗣	54	当選
	小川 康雄	49	会長枠
	三好 由純	25	会長枠

(以下は、17 票以下)

上位 9 名を選出後、内規第 2 条第 2 項の定めに従い、新会長は新旧評議員と協議の上、研究分野のバランスを考慮し、さらに 2 名を選出しました。塩川和夫第 32 期会長を加えた 12 名が第 33 期評議員になります。

なお、評議員の選出について、内規第 2 条第 2 項で、「(前略) 得票数の順位に従って上位 9 名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。評議員については、選挙で選ばれても辞退することができる。(中略) 新会長は新旧評議員と協議の上、さらに 2 名まで選出することができる」と定められています。

(3) 運営委員 開票結果

投票者数 218

順位	氏名	得票数	
1	岩井 一正	159	当選
2	高橋 太	158	当選
3	中溝 葵	158	当選
4	横山 竜宏	151	当選
5	大矢 浩代	147	当選
6	笠原 慧	146	当選
7	原田 裕己	141	当選
8	田中 良昌	136	当選
9	柿並 義宏	134	当選
10	山谷 祐介	130	当選
11	富川 喜弘	129	当選
12	山崎 敦	128	当選
13	市來 雅啓	125	当選
	笠羽 康正	118	会長枠
	望月 伸竜	111	会長枠
	諫山 翔伍	108	

齋藤 武士 107 会長枠

(以下 2 票以下)

運営委員の選出について、内規第 2 条第 3 項で、「(前略) 合計得票数の順位に従って上位 13 名を選出する。得票数が同数の場合は年長者を上位とする。新会長は運営委員会の継続性ならびに運営委員所属機関等のバランスを考慮し、新副会長、新旧運営委員と協議の上、定数 16 名の残り 3 名を選出する。」と定められており、内規に従って「会長枠」の 3 名が選出されました。

(第 32 期総務担当運営委員 横山 竜宏)

第 32 期第 7 回運営委員会報告

日時：2025 年 2 月 4 日 (金) 17:00~21:00

会場：Zoom オンライン

出席者(総数 18 名、定足数 11 名)：塩川和夫(会長)、中村卓司(副会長)、浅村和史、阿部修司、市來雅啓、今村剛、臼井洋一、大矢浩代、柿並義宏、笠羽康正、片岡龍峰、齋藤武士、高橋太、原田裕己、三好由純、山谷祐介、横山竜宏(欠：中溝葵)

議事：

02. 入退会審査(庶務)

- ・退会 1、変更(学生会員から一般 1)を承認した。

03. 会計

- ・2024 年度一般会計：予算に対し大幅な差異は生じない見込。

- ・2025 年度年会費：新会員システム移行に伴い「銀行引き落とし」が廃止。

【審議】「4 年以上年会費未納で連絡が取れない方」の退会を承認。

04. 助成

【審議】若手派遣：1 名を承認。

05. 各種賞関係(総務)

- ・山田科学振興財団：2 件推薦予定

- ・直木賞：吉原新会員が受賞。

【審議】長谷川・永田賞：選考委員を承認。5 月の評議員会で選考報告と審議を行う。

【審議】大林奨励賞の申請資格：「博士学位取得からの経過年」を加えた内規改定へ進むことを承認。

06. 秋学会関係（秋学会、学生発表賞、アウトリーチ、3学会）
- (1) 2025 秋学会準備状況
 - ・大会委員長 - 島伸和会員（神戸大）。
 - ・日時： 2025/11/23（日） 一般公開イベント。11/24（月・祝）～27（木） 講演会・総会。
 - ・会場： 神戸大学六甲台第二キャンパス（一般公開イベント：百年記念館六甲ホール）。
 - (2) 今後のスケジュール - 2024 年とほぼ同じ
 - ・5月下旬～JpGU 直後頃： LOC、秋学会システム打合せ。
 - ・秋学会システム： 新会員システムとの連結作業が入る。投稿システムは 7～9 月、参加登録システムは 10～11 月に稼働。
 - (3) 2024 学生発表賞： 最優秀発表賞 10 件、優秀発表賞 20 件。副賞は年度内にご送付する。受賞者の所属変更・就職等があるため。
07. アウトリーチ
- (1) 秋季年会アウトリーチイベント（2024/11/23、会報 252 号にて報告）。
 - ・JpGU2025 アウトリーチセッション（G-01）で、堺会員ほか部会メンバーが「学会アウトリーチ活動におけるバーチャル YouTuber とのコラボレーション」と題した発表を行う。
 - (2) 秋季年会プレスリリース： 3 件。
 - (3) 衛星設計コンテスト： 共同主催 - 審議中。実行委員 - 審議中（中村新会長、中溝会員）。審査委員 - 内諾済、委嘱手続き準備。
08. 男女共同参画
- (1) 秋学会・保育室利用： 協力 - LOC 橋本会員。利用 - 1 名（11/24、11/26）、総額： 9 万円。
 - (2) 男女共同参画学協会連絡会 第 23 期第 1 回運営委員会： 2024/8/30（金）オンライン。
 - (3) 第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポ： 2024/10/12（土）中央大・茗荷谷 + オンライン。
 - (4) ダイバーシティ推進 WG： 秋学会中に第 2 回開催。海外出身者の日本での研究経験、大林奨励賞の申請資格を議論。
 - (5) JpGU ダイバーシティ推進委員会（任期 2026/7/31 まで）。キックオフ会合（2024/9/12 木）。役割分担毎に JpGU2025 に向け進行中。
 - (6) 来季： 現在 2 名、二人共女性。男性を 1 名追加したほうがいい（過去は入っていた）。
09. EPS 関係（雑誌）
- (1) 編集・出版状況
 - ・1/1 より、編集長・能勢会員（名古屋大）に交代。
 - ・2024 出版数： 例年並み。
 - ・2024 IF 予測： 2.8～2.9 程度。やや低くなるかも。
 - ・3/1 より、Express Letters の APC 割引開始。会員割引より若干多め。
 - (2) JGG 誌の使用許諾願： 一件許諾。
10. Web 関係（広報 Web）
- ・多岐の update を実施： ML、受賞、252 号会報、秋季年会、会員専用ページ、運営委、学生発表賞、賛助会員、会員手続・会員種別、将来構想 2024 年度版、英語版、古いウェブサイトの処置。
 - ・STEPLE wiki ページ： 堺会員の尽力で東北大から移設（https://sgepss.org/ornew/steple_wiki/）。
11. メーリングリスト関係（広報・ML）
- ・10 月～1 月： 月例更新を行った。
12. 会報関係（広報 会報）
- 【審議】 253 号： 4/23（水）原稿締め切り。5/15 発行を承認。
13. 連合対応関係（連合対応）
- (1) JpGU 環境災害対応委員会： web を構築中。
 - ・SGEPSS として対応する分科会が存在せず、係分担任では「observer」。
 - (2) 来季： JpGU Program 担当と統合。学会本来の「JpGU 対応」は「会長・副会長・総務 + JpGU セクション枢要メンバー」で構築する。
14. 将来構想 WG 関係（将来構想 WG）
- ・修正を経て 2025/1/31 にウェブサイトに公開した（<https://www.sgepss.org/about/vision.html>）。
- 15-2. 選挙における分野名（総務）
- 【審議】 選挙の大分野名： 「主として地球惑星内部・固体物理学を研究する会員から 3 名」を「主として地球惑星内部・固体地球惑星物理学を研

第 32 期第 8 回運営委員会報告

日時：2025 年 4 月 1 日（金）17:00～21:00

会場：Zoom オンライン

出席者（総数 18 名、定足数 11 名）：塩川和夫（会長）、中村卓司（副会長）、浅村和史、阿部修司、市來雅啓、今村剛、臼井洋一、大矢浩代、柿並義宏、笠羽康正、齋藤武士、高橋太、中溝葵、原田裕己、三好由純、山谷祐介、横山竜宏（欠：片岡龍峰）

オブザーバ（第 33 期運営委員）：清水久芳（次期副会長）、岩井一正、田中良昌、富川喜弘、望月伸竜、山崎敦（欠：笠原慧）

議事：

01. 協賛・共催関係（庶務）

- ・協賛：宇宙技術および科学の国際シンポジウム（ISTS）：2025/7/12-18（アスティとくしま）。
- ・協賛：日本流体学会年会 2025：2025/9/17 -19（大阪公立大学中百舌鳥キャンパス）。

02. 入退会審査（庶務）

【審議】 4 月分退会：年会費未納がある方を保留、他は承認した。

03. 会計

- (1) 新会員システムでの年会費徴収：クレジットカード or 銀行振込。「銀行引き落とし」が無くなる。
- (2) 会費滞納者への督促
 - ・3年以上：前回運営委員会（2/4）以後、運営委員に個別連絡。
 - ・2年以内：12月に会計担当から個別に電子メールで入金依頼。
 - ・新会員システム：年会費未納の場合、秋学会システムから年会費支払へ飛ぶ検討を行う。
- (3) JpGU2025：学会事務局・年会費納入デスクは、総会を挟む 5/27（火）PM～5/28（水）PM でお願ひする。
- (4) 新会員システム-秋学会システム連動：追加経費が発生する。2025 年度支出項目となる。次回総会での議決ないし報告事項とする。

04. 助成

- ・Web の国際学術交流事業ページ：新定義に合わせて更新した。

究する会員から 3 名」への内規変更を承認。

〈議論〉副会長・評議員は立候補・推薦方式を取らなくてよいか。2000/9/18 第 20 期運営委員会で「評議員・会長選挙は立候補・推薦を求めない」ことになった模様（会報 170 号）。副会長はこの後導入されたので、この流れに従うもの。

15-3. JpGU 時の日程（総務）

【審議】 総会は、参加者が最多と思われる 5/28 水昼。評議員会は、前日までに現地開催。運営委員会は前週までに zoom 開催。

15-4. 次期運営委での総務（総務）

- ・来季から 2 名とする。副担当は新副会長に近い方とし、副会長/総務副担当は次の期で会長/総務主担当。33 期は、2 年目から主担当「会員から見える」仕事、副担当「会員から見えない」仕事で分担。

[主] 運営委員会進行、総会での説明、評議員会との連絡、ML 等会員との窓口。

[副] 総会資料、賞推薦資料、委嘱状、出張依頼書等の作成、会報記事作成、運営委員会議事録等。

〈背景〉「会長と物理的に近い方」という慣例だったが、オンライン化が進み不便さはない。とはいえ、1 名体制だと引継等に支障。

15-5. 新会員システム関係（庶務）

【審議】 以下を承認した。

- (1) 専門分野：粒度は現状維持。
- (2) 秋学会システム：新会員システムと連動させる。設営経費に注意。
- (3) 秋学会に新規会員として参加する場合：運営委による「入会承認>年会費納入要請」は事後とし、会員として投稿・参加登録および ML 設定を進める（正会員は従来と同じ）。
- (4) 学生会員：「会費 3000 円・参加費 0 円」に単純化し、正会員と同じ手続に統合する。これに伴い、2012 年制定の内規「学生会員の運用に関する申し合わせ」（秋学会参加費を年会費として扱う措置を定義）は、次総会での報告を経て無効とする。規約第 26 条「学生会員は入会から翌年度の 8 月末あるいは学生会員の資格を失ったときに自動的に退会」は維持する。

05. 各種賞関係（総務）

- ・長谷川・永田賞：2件推薦を得て、選考委員を設定した。
- ・文部科学大臣表彰・若手科学者賞（1件）：安藤紘基会員。
- 文部科学大臣表彰・研究支援賞（1件）：田中良昌、阿部修司、新堀淳樹、上野悟、佐藤夏雄各会員。
- ・山田科学振興財団研究援助：2件推薦。
- ・日本学術振興会賞：1名推薦。
- ・日本学術振興会育志賞：推薦受付中。

【審議】大林奨励賞内規：第一条（2）へ下線部の追加改訂を承認した。

「この場合、若手会員とは当該年度初めに35才以下、または、学位取得後8年未満の会員をいう。ただし、やむを得ない事情により研究から離れた期間がある会員については、その期間を上記の年齢/年数に加算する。」

06. 秋学会関係（秋学会、学生発表賞、アウトリーチ、3学会）

（1）2025秋学会準備状況。

【審議】講演会投稿規定の改訂を承認した。秋学会投稿開始時にアナウンスを行う。

（2）第156回講演会SGEPSS学生発表賞：副賞（お酒またはお菓子）を3月に送付した。

〈議論〉審査委員の確保が大変：エントリー制（「審査を希望/希望しない」の選択を学生発表者の投稿で設定可能とする）の実装を検討する。「審査員に見てもらえる」という発表者側メリットも考慮。

07. アウトリーチ

（1）VTuber（星見まどかさん）とのコラボ：SGEPSS関連研究機関、研究室紹介。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLHFwuDVA8MgaZMQdM4yDRY4ZrN8ntw3Rn>

第0回：STEPLE（2024/6 ライブ配信）

第1回：東北大（2024/7 ライブ配信）

第2回：京都大（2024/8 ライブ配信）

第3回：極地研（2024/9 ライブ配信）

第4回：名古屋大（2024/11 ライブ配信）

第5回：九州大（2025/3 ライブ配信）。

（2）第33回衛星設計コンテスト：2025/1/28（火）第1回実行委員会。

- ・参加登録受付：4/1（火）～5/12（月）。

- ・作品提出締切：7/7（月）。
- ・結果発表：9月上旬。
- ・最終審査会：11/22（土）。

08. 男女共同参画

・第33期 大矢（主担）・岩井。

（1）男女共同参画学協会連絡会第23期第2回運営委員会：2025/3/13 金・オンライン。

（2）ダイバーシティ推進WG：4-5月に一度開催。2025年4月から、WG主査が32期担当の中溝、大矢から、33期担当の大矢、岩井へ交代。

（3）JpGUダイバーシティ推進委員会（任期：～2026/7/31）：中溝 > 岩井へ交代。

09. EPS 関係（雑誌）

3/10 現在：投稿 57、出版 27（2024年全体：投稿 344 出版 172）。

4/1 以降：EPS誌運営委員会議長 - 長谷川健（火山学会）。

10. Web 関係（広報 Web）

- ・多岐のupdateを実施：topics、総会・講演会、学会事務局情報、Youtubeチャンネル名、歴史資料、東日本大震災関連発表論文、過去の総会・講演会情報、直近受賞者をリスト化、学生会員・海外・シニアの手续説明修正、支援情報の改訂、賛助会員情報の改定、英語版。

- ・以下も改訂予定：各種手続き・Form（新会員システムに絡んで）、会員専用ページのリンク変更、プライバシーポリシー・サイトポリシー、規約・内規・申し合わせ（ファイル名から年月日削除）、名誉会員情報の充実、アウトリーチ情報の更新、STEPLEパンフの掲載、「33期」への更新、名誉会員 & 会員情報の可視化。

【審議】プライバシーポリシーの更新、サイトポリシーの新設を承認した。Google Analyticsの活用のため。

11. メーリングリスト関係（広報・ML）

- ・2月～3月：月例更新を行った。
- ・運営委ML：32期委員は4/末まで継続し、5月から33期委員のみで。

12. 会報関係（広報 会報）

- ・253号（4/23（水）原稿締め切り。5/15発行）：波動分科会、Conductivity Anomaly（CA）研究

会、太陽地球惑星系科学シミュレーション分科会、内部磁気圏分科会へ活動報告を依頼。

〈申し送り〉 以下を確立する。

1. 記事投稿規定・テンプレート：編集作業の負担が減る。
2. 著作権問題：ルールを定めておく。
3. 会報コンテンツ：研究紹介・レビュー記事。

13. 連合対応

- ・「春学会」としての JpGU：「常設セッション」の機能と秋学会との接続は、コンビーナを越えて学会として考えるべき。「分科会」との接続も含む。

【審議】 以下を会長・副会長（・総務）で担うことを承認した。

- (1) JpGU 学協会長会議：出欠回答、議事録の運営委員へ回覧。
- (2) JpGU コアメンバー内の SGEPS 会員：ピックアップおよび SGEPS との連結。

15-1. 新会員システム関係（庶務）

【審議】 以下を承認した。

1. 会員検索システム：需要あるため JTBCOM と調整に着手する。
2. 会員の「学位・取得年」情報：追加しない。
3. 学生会員の退会：「8 月自動退会」を維持し、事務局の退会承認負担を軽くする。
4. EPS 誌の論文掲載料の会員割引情報：公開ページで説明。
5. オフライン手続フォーム：会員システム変更に合わせて改訂。

第 33 期第 1 回運営委員会報告

日時：2025 年 4 月 1 日（月）20:30~21:00

会場：Zoom オンライン

出席者（総数 18 名、定足数 11 名）：中村卓司（会長）、清水久芳（副会長）、市來雅啓、岩井一正、大矢浩代、柿並義宏、笠羽康正、齋藤武士、高橋太、田中良昌、富川喜弘、中溝葵、原田裕己、望月伸竜、山崎敦、山谷祐介、横山竜宏（欠：笠原慧）

[第 33 期役員]

- ・会長：中村卓司 会員。

- ・副会長：清水久芳 会員。

- ・評議員：石井守、大村善治、小川康雄、齋藤義文、関華奈子、中川朋子、橋本武志、三好由純、山本衛、吉川顕正、山崎俊嗣 各会員。

01. 役割分担の確認（総務）

- ・総務：横山（主）、田中。
- ・庶務：笠羽（主）、望月。
- ・会計：原田（主）、岩井。
- ・雑誌：山谷（主）、柿並、笠原。
- ・秋学会：富川（主）、山崎、高橋。
- ・秋学会/学生発表賞：市來（主）、山崎、大矢。
- ・広報/web：高橋（主）、笠原。
- ・広報/メーリングリスト：望月（主）、原田。
- ・広報/会報：柿並（主）、齋藤、市來。
- ・アウトリーチ：中溝（主）、柿並、山谷、原田。
- ・ダイバーシティ：大矢（主）、岩井。
- ・助成：岩井（主）、市來、富川。
- ・3 学会プラズマ対応：笠原。
- ・連合大会：齋藤（主）、笠羽、中溝。
- ・将来構想 WG：山崎（主）、齋藤、富川。

02. 会計監査委員の選任（総務）

以下の 2 名に就任を依頼し承諾を頂いた。

佐藤光輝 会員（北大）

畠山唯達 会員（岡山理大）。

03. 次回運営委員会、評議員会、総会（JpGU 時）

- ・運営委員会：5/21（水）15:00~19:00（ZOOM）。
- ・評議員会：5/26（月）18:30~21:30（海浜幕張駅近傍の会議室）。
- ・総会：5/28（水）12:30~13:30（幕張メッセ・JpGU 会場 R103 [定員 126 人]）。
- ・JpGU SGEPS デスク：106（2024 と同じ。総会会場の前）。

新会員システムについて

新年度頭から、新たな会員システムへ移行いたしました。このシステム運営は、秋季年会の投稿・参加システムと同じく、JTB コミュニケーションデザイン社（JTBCOM）にお願いしております。

学会事務局機能は、引き続きプロアクティブ社（PAC）にお願いしております。会員・外部機関との各種コミュニケーションや学会会計管理とともに、

新会員システムの操作を PAC に担って頂いています。

1. 初動アクセスのお願い

学会事務局から、4 月頭に ID・仮パスワードが個別にメールでご送付されました。これを使って以下の会員専用ページへアクセスし、パスワード設定と登録項目の確認をお願いいたします。

<http://www.sgepss.org/sgepss/> -> トップの「会員専用ページ」から以下へ接続ください。
<https://secure2.jtbcom.co.jp/sgepss/>

うまく行かない方は、学会事務局または運営委員会・庶務担当までご連絡ください。

特に以下にご留意ください。

- ・ID: 新規振り直しです(秋学会と共通となる)。
- ・会費納入方法: 「クレジットカード」「銀行振込」のいずれかを選択。

2. 旧会員システムとの違い

旧システムが持っていた「会員情報の入力・変更・閲覧」「年会費の納入・確認」「その他“会員限定情報”」を包絡します。JTBCOM 社の汎用システム上に構築されたため融通が効かない部分もありますが、みなさまからご提案・ご希望等ございましたら運営委員会・庶務担当までお寄せください。

年会費納入は、秋学会の参加費支払と同方式となります。このため「銀行引き落とし」が無くなりましたので、ご了解ください。

なお、「名簿閲覧機能」は追加開発が必要であることが判明しました。現在この実装の検討途上です。必要な情報がありましたら、当面は学会事務局または運営委員会・庶務担当までお尋ねください。

3. 新会員システムと秋学会システム: 特に学生会員について

どちらも JTBCOM 社の運営となりました。独立構築ですが、同じ User ID を使用できることとなりました。秋学会システム側の更新作業を今後進めていきますが、単純化のため、「秋学会参加費」「年会費」の二通りがあった学生会員を「年会費 3000 円」・「秋学会参加費 0 円」に統一しました。

〈参考〉年会費+秋季年会参加費は、正会員: 1.2+0.5 万、学生会員: 0.3 万。学生会員の必要経費は、他学会に比して大幅に安価のまま維持しています (ただし、当学会の場合には JpGU にも会費+参加費を払うケースが主)。

第 157 回総会開催のご案内

第 157 回総会を日本地球惑星科学連合 2025 年大会の会期中、下記のとおり開催します。

日時: 2025 年 5 月 28 日 (水) 12:30~13:30

会場: 幕張メッセ国際会議場 103 室 (日本地球惑星科学連合 2025 年大会会場) と Zoom によるハイブリッド開催

学会賞授与や重要な議事がありますので、会員の方は是非ご出席ください。現地会場にて出席される場合は連合大会の参加登録が必要です。やむを得ず欠席される場合には、事前に委任状の提出をお願い致します。Zoom 接続情報と電子委任状提出方法は学会メーリングリスト (sgepssall) にてご案内します。

(第 33 期運営委員・総務 横山竜宏)

学会費納入についてのお知らせ

2025 年度学会費納入をご案内いたします。所定の方法によってお支払いいただきますようお願い申し上げます (納入期限: 7 月 31 日)。学会の様々な活動を支える財政基盤は会員の皆様に納入していただく会費にあり、未払いがありますと健全な学会運営に重大な支障をきたします。督促作業には経費とともに人的コストも相当かかりますので、期限までの納入への皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

なお、学生会員については 2024 年度までは秋季年会への参加費 (3000 円) として会費が領収されていましたが、2025 年度からは年会費 3000 円+秋季年会参加費 0 円の方式に変更されます。学生会員についても「年会費納入」で学生会員資格継続となりますので、期限までの年会費の納入をお願い申し上げます。年会費支払のない方は、8 月末に自動退会となります。

当学会の会費納入は以下の 3 つの方法よりお選びいただけます。※「銀行自動引き落とし」は今年度よりご利用いただけません。ご了承ください。

- (1) 銀行振込（校費払いも可能）
- (2) クレジットカード払い（下記の新会員システムから可能）
- (3) SGEPPS 学会デスクでの支払い（現金のみの取り扱い）

クレジットカード払いについては、学会が手数料を負担します。

学会費の支払い方法の設定、金額の確認、クレジットカード決済、および支払い後の領収書発行は、新会員システムで可能です（<https://secure2.jtbcom.co.jp/sgepps/> または SGEPPS ホームページの右上「会員専用ページ」からもアクセス可能）。新たに学会費の支払い方法の設定を行っていただくことになりますので、お早めに納入をよろしくお願いいたします。なお、クレジットカード決済の際にカード会社によっては認証で別画面に遷移し、会員システムからは一旦ログアウトしてしまうことがあるようです。再度ログインしていただくと、領収書発行等の手続きが可能です。ご質問の場合、およびお急ぎの場合には、事務局（sgepps@pac.ne.jp）にご連絡下さい。

2025 年度 JpGU 会場の SGEPPS 学会デスクにおける会費支払いは、5 月 27 日（火）の 13:00 ~ 18:00、および 28 日（水）の 9:00 ~ 17:00 に受け付ける予定です。

（第 33 期運営委員・会計・原田裕己、岩井一正）

2025 年秋季年会のお知らせ

2025 年秋季年会（第 158 回総会・講演会・一般公開イベント）を 11 月 23 日（日）～11 月 27 日（木）（11/23: 一般公開イベント、11/24-27: 総会・講演会）に、神戸大学六甲台第 2 キャンパス（神戸市灘区）を中心としてハイブリッド形式で開催します（LOC: 神戸大学）。講演予稿の投稿期間は 7 月下旬-8 月下旬を予定しています。皆様のご参加・ご講演をお待ち申し上げます。

特別セッションの募集

2025 年秋季年会の講演会（11 月 24 日（月）～11 月 27 日（木）：神戸大学）開催に向けまして、「特別セッション」のご提案を広く会員の皆様から募集します。「特別セッション」の詳細は別記の通りです。次の内容を添えてご応募下さい。

1. コンビナー：お名前、ご所属、ご連絡先
2. セッションタイトル（日本語および英語）
3. セッション内容説明
4. 特別セッションとして行う意義
5. セッションの規模（参加見込人数）

応募先：fm@sgepps.org

締切：2025 年 5 月 19 日（月）17:00

ご応募頂いた提案は、運営委員会で検討の後、採択が決まったご提案について会報やホームページ等で周知させていただきます。多数のご応募をお待ちしております。尚、ご質問等は運営委員会・秋学会担当委員までご連絡下さい。

（第 33 期運営委員・秋学会担当・富川喜弘、山崎敦、高橋太）

記：「特別セッション」について

学会及び秋の講演会の活性化を図るために、秋学会では「特別セッション」を設けています。「特別セッション」は、次のような内容を議論する場として位置づけられています。

- ・レギュラーセッションとは別枠で議論する話題性のある内容（時機にあった話題、重要テーマなど）。
- ・当学会内、また他学会も含めたような、分野横断的な内容。

特別セッションでは、講演数の制限を緩め、レギュラーセッションと重複した講演申込も可能となっています。

これまで開催された特別セッションは以下の通りです。

- 2024: 気球観測の最前線－現在と将来の気球観測は何ができるのか－
2024 年 5 月巨大宇宙嵐における太陽地球系変動
- 2022: SGEPPS・天文学会・物理学会合同セッション:室内実験・惑星・天体プラズマの普遍性と多様性
- 2021: 2030 年代を見据えた学会将来構想
SGEPPS における研究データマネージメント
- 2020: 論文が書ける研究データ管理・出版・引用：データの新しい役割を見据えて

- 2018: 「あらせ」および多衛星・地上連携観測によるジオスペース研究の進展
- 2017: あらせ衛星/地上観測によるジオスペース研究の新しい展開
- 2016: 考古学と地球電磁気学
- 2015: 大型大気レーダー観測の新時代に向けて
アジア・オセアニア国際連携による宇宙惑星系探査・観測の新機軸
- 2014: ひさき衛星 (EXCEED) の成果と期待する科学
- 2013: 国際宇宙ステーションからの地球大気・プラズマ観測による新展開
- 2012: 地殻・大気・電離圏結合
地球電磁気・地球惑星圏科学の将来構想
- 2011: 電離圏変動と地震の関係
- 2010: SGEPS における最新の月科学: 「かぐや」から次の時代へ
- 2009: 月周回衛星「かぐや」観測による STP 研究の新展開
- 2008: 南極昭和基地大型大気レーダーによる超高層大気研究の新展開
地震学と地球電磁気学の境界領域研究
- 2007: STE 研究における地上ネットワーク観測の現状と将来展望
SGEPS 創立 60 周年記念特別セッション: 地球電磁気学の歩み
- 2006: 地上-衛星観測・データ解析・モデリングの統合型ジオスペース研究に向けて
地球惑星磁気圏探査: 将来計画~これからの黄金の 20 年とするために~
- 2005: 宇宙進出と STP 科学の接点
SGEPS における小型衛星の可能性
- 2004: 宇宙天気

また、2025 年度のレギュラーセッションは以下の予定です。

- R003: 地球・惑星内部電磁気学 (電気伝導度、地殻活動電磁気学)
- R004: 地磁気・古地磁気・岩石磁気
- R005: 大気圏・電離圏
- R006: 磁気圏
- R007: 太陽圏
- R008: 宇宙プラズマ科学
- R009: 惑星圏・小天体

- R010: 宇宙天気・宇宙気候 ~観測、シミュレーション、その融合~
- R011: データシステム科学

分科会報告

波動分科会活動報告

松田昇也、諫山翔伍、松清修一

○2024 年度名大 ISEE 研究集会 「多地点観測による内部磁気圏プラズマ波動の観測と将来構想検討会」

主催: 名古屋大学 宇宙地球環境研究所
共催: SGEPS 内部磁気圏分科会、SGEPS 波動分科会、SGEPS 粒子加速研究分科会、
電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 H 小委員会、ERG プロジェクト、太陽圏サイエンスセンター

日時: 2025 年 3 月 10 ~ 12 日

場所: 名古屋大学宇宙地球環境研究所

世話人: 松田昇也 (金沢大)、加藤雄人 (東北大)、永岡賢一 (核融合研)、小林進二 (京都大学)、桂華邦裕 (東大)、笠原慧 (東大)、篠原育 (ISAS/JAXA)、三好由純 (名大 ISEE)

本研究集会は、昨今注目されている多地点観測技術等に注目し、内部磁気圏におけるプラズマ波動の役割・励起/伝搬過程の理解を深めることを目的として開催した。会期は 2025 年 3 月 10 日から 12 日までの 3 日間で、名古屋大学宇宙地球環境研究所とオンラインのハイブリッド形式として、国内外 21 機関から 75 名 (3 日間で延べ 197 名) の参加者を集めた。あらせ衛星による太陽活動極大期の内部磁気圏観測と地上連携観測に関する速報や、世界各国に展開する地上観測網の整備・運用状況が共有され、今後の観測戦略立案に関する議論が交わされた。また、複数の衛星観測データを組み合わせることによる自然現象を用いた intercalibration の取り組みが紹介され、観測データの較正精度向上に繋がる議論などが見られた。会期 3 日目の午後には、多地点観測データを統合的に解析するために必要な解析ツールの開発・活用

についても集中的に議論する機会として、IDL/SPEDAS と PySPEDAS を用いた科学データ解析ワークショップを開催し、多数のデータを組み合わせた統合解析技術の向上に貢献した。本研究会の資料等は、太陽圏サイエンスセンターのホームページ (<https://ergsc.isee.nagoya-u.ac.jp>) に掲載されている。

○2024 年度名大 ISEE 合同研究集会

「宇宙プラズマと高強度レーザー実験における非線形波動とプラズマの相互作用」及び「実験室における統計加速を利用した新しい共同研究体制構築の検討」

主催：名古屋大学 宇宙地球環境研究所

共催：SGEPSS 波動分科会、粒子加速研究分科会

日時：2025 年 3 月 26～27 日

場所：京都大学宇治キャンパス及びオンライン

世話人：諫山 翔伍 (九大)、松清 修一 (九大)、小林 進二 (京大)、三好 由純 (名大 ISEE)

近年、レーザー技術の高強度化により、大振幅プラズマ波動の励起や強磁場の生成が可能となり、宇宙における極限環境を地上で模擬できる段階にあります。これにより、宇宙で発生する相対論的粒子加速現象を地上実験で再現することが現実味を帯びてきており、宇宙線加速機構の新たな検証手法として期待されます。本研究集会は、宇宙プラズマおよび レーザー・実験室プラズマの分野における最新の研究成果を共有し、両分野の連携を深めることを目的として開催されました。集会では、宇宙プラズマに関する 9 件、レーザー・実験室プラズマに関する 14 件、計 23 件の講演が行われ、予想を上回る多数の参加者を迎えて、活発な議論が展開されました。宇宙プラズマのセッションでは、衝撃波による電子加速、高エネルギー天体近傍でのガンマ線放射や粒子加速の理論・シミュレーション、さらには地球・火星周辺のコーラス放射やオーロラ現象など、実験室プラズマと関連性の高い話題も多く取り上げられました。これらの講演を通じて、実験研究者との間で建設的な意見交換が行われ、今後の実験計画につながる議論が展開されました。一方、レーザー・実験室プラズマのセッションでは、宇宙プラズマと密接に関連する衝撃波生成、磁気リコネクション、イ

オン・陽電子加速、人工磁気圏におけるコーラス放射、さらにヘリカル型・トーラス型プラズマ中の統計的粒子加速に関する講演が行われました。これらの研究は宇宙プラズマ物理との共通点も多く、宇宙物理分野の研究者と実験研究者の間で有意義な交流が図られました。本研究集会を通じて、宇宙プラズマと実験プラズマの両分野の連携が深まり、将来の宇宙物理実験に向けた新たな展望が開かれる、大変実りある機会となりました。

○波動分科会の活動情報は (<https://sites.google.com/site/sgepsshadou>) にて公開している。分科会活動に興味のある方は幹事まで気軽にご連絡いただきたい。

「Conductivity Anomaly 研究会」分科会 2024 年度活動報告

橋本武志、藤井郁子、
多田訓子、小森省吾

Conductivity Anomaly (CA) 研究会は、地球および惑星内部における電磁気学的構造や電磁気現象の理解を目的として活動しています。今年度は、JpGU 期間中に対面での打合せ会を 1 回、12 月にオンラインでの打合せ会を 1 回実施し、さらに年度末には研究集会を東京で開催しました。9 月に別府市で行われた、IAGA Division VI 主催の Electromagnetic Induction Workshop でも、東京大学・馬場聖至会員をはじめとする当分科会関係者が運営や研究発表で活躍しました。

3 月の研究集会は、京都大学・宇津木充会員のとりのまとめのもと、「地球物理学・地球電磁気学におけるインバージョン理論の実践と発展」をメインテーマに掲げ、東京大学地震研究所の共同利用研究集会として開催されました。対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で行われ、現地参加者 68 名、オンライン参加者 14 名、口頭発表 26 件、ポスター発表 14 件と、多くの方にご参加いただきました。例年、当分科会の研究集会は年末年始に行われますが、今年度は 9 月の Workshop に合わせて変則的なスケジュールとなり、参加者が少なくなるのではとの懸念もありました。しかし、蓋を開けてみれば予想を上回る盛況ぶりで、大変意義ある会となりました。

講演では、地下構造の解析結果の紹介をはじめ、インバージョン手法の新たな提案や改良、AI・深層学習・MCMCなどの計算統計学的アプローチの導入例など、多岐にわたるテーマが取り上げられ、活発な議論が交わされました。また、以下の分野の第一線でご活躍中の研究者による招待講演が行われ、最新の研究動向が共有されました：

吉澤和範 教授（北海道大学、地震学）
栗原 亮 技師（温泉地学研究所、地震学）
宗包浩志 室長（国土地理院、測地・地殻変動）
石塚師也 講師（京都大学、地熱・機械学習）
長尾大道 准教授（東京大学、機械学習）

加えて、学部生・大学院生の参加も非常に活発で、学生による発表が20件、参加学生数はオンラインを含めて25名にのぼり、若手研究者による熱心な議論が行われました。これらを踏まえ、今年度の研究集会は内容・参加ともに非常に充実し、当研究会にとって意義深い成果を得ることができました。開催にあたり、多大なるご支援を賜りました東京大学地震研究所の教職員の皆様に、心より御礼申し上げます。

当研究会の活動情報は、下記ウェブサイトにて随時公開しております：

<https://sites.google.com/view/sgepss-ca>

また、分科会のメーリングリストやSlackワークスペースへの参加をご希望の方は、幹事グループ(ca-kanji@googlegroups.com)までご連絡ください。随時対応させていただきます。なお、幹事の任期は原則として4年を目処としており、2024年度末をもって橋本・多田の両名が退任し、2025年度より新たに藤田清士会員・市原 寛会員の両名が幹事グループに加わることとなりました。今後とも、CA研究会の活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

内部磁気圏分科会活動報告

西山尚典、謝怡凱、
山本和弘、寺本万里子

内部磁気圏分科会は、内部磁気圏研究に関連する諸分野との交流、共同研究やキャンペーン観測の促進、新しい内部磁気圏探査ミッションの実現などを通して内部磁気圏研究を推進することを目

的としています。2024年度は、分科会として以下の2回の会合を行いました。

○第51回内部磁気圏分科会

日時：2024年5月26日（JpGU 会合中）

場所：幕張メッセ・ZOOMのハイブリッド

この会合では、以下のような議題を扱いました。

- ・ERGプロジェクトについて
- ・サイエンスセンターの活動報告
- ・FACTORS WG 報告
- ・Chapman Conference について
- ・ひまわり10号搭載RMSの開発状況
- ・分科会世話人交代について

○第52回内部磁気圏分科会

日時：2024年11月27日（SGEPSS 学会中）

場所：東北大学・ZOOMのハイブリッド

この会合では、以下のような議題を扱いました。

- ・ERGプロジェクト報告
- ・ERGサイエンスセンター報告
- ・あけぼの衛星の大気圏再突入について
- ・ひまわり搭載の宇宙環境センサの開発状況
- ・SGEPSS 将来構想文書の少改訂について
- ・JpGU 内部磁気圏セッションについて

分科会での発表資料の一部は、分科会ホームページでご覧頂けます。内部磁気圏分科会ホームページアドレス：<https://sites.google.com/site/naibujikikenbunkakai/>

また、当分科会の活動に関連する以下の研究集会在、名古屋大学宇宙地球環境研究所の共同研究集会として開催されました。

○「2024年5月磁気嵐データ解析検討会」

日時：2024年7月4日

場所：名古屋大学 宇宙地球環境研究所

○「脈動オーロラ研究集会」

日時：2025年1月22-23日

場所：名古屋大学 宇宙地球環境研究所

○「第21回ERGサイエンス会議 および 関連研究集会」（内部磁気圏分科会 共催）

日時：2024年9月10-11日

場所：宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所

○「第22回ERGサイエンス会議 および 関連研究集会」（内部磁気圏分科会 共催）

日時：2025年3月10～12日
場所：名古屋大学 宇宙地球環境研究所



写真：あけぼの衛星の大気圏再突入を報告するスライド（SGEPSS 学会・内部磁気圏分科会にて）

上記のような分科会会合・研究集会に加え、2021年3月から、Slackを通じた活動を開始しています。

Slackは、チャットでの交流・質問・議論・ファイル共有ができるオンラインツールであり、近年多くの研究会等で活用されています。現在内部磁気圏 Slack へは80名が参加しており、論文情報の交換やPythonに関する教科書の共有、雑談等が行われています。

内部磁気圏 Slack への参加をご希望される方は世話人までご連絡ください（naibujikiken@gmail.comあるいは個人宛）。

太陽地球惑星系科学シミュレーション分科会活動報告

松本洋介、天野孝伸、加藤雄人、
銭谷誠司、中溝葵、三宅洋平、
三好隆博、梅田隆行

当分科会は、“数値シミュレーション”を共通のキーワードとしてSGEPSSと関連研究諸分野の研究者との交流を図り、SGEPSS分野におけるシミュレーション研究の発展をサポートすることを目的としています。本稿では2024年11月に開催された分科会会合ならびに同12月に開催されたSTEシミュレーション研究会について報告します。

STEシミュレーション分科会会合

日時：2024年11月26日（火）

会場：統計数理研究所

本会合は2024年秋季年会中に、「波動分科会」ならびに「粒子加速研究分科会」と合同で開催し、約20名の現地参加がありました。

2024年12月に実施した「STEシミュレーション研究会」、2025年3月初旬に連続開催された「太陽地球圏環境予測のためのモデル研究の展望」、「シミュレーションと計算科学の学際展開：宇宙・地球・社会」ならびに「第8回ISEEシンポジウム“Frontier of Space-Earth Environmental Research as Predictive Science”」の案内や、2025年度共同研究公募の紹介、SGEPSS将来構想文書小改訂の内容が議論されました。また、2025年度以降の分科会管理体制や、関連研究集会の連続開催についての議論がされました。資料は<https://cidas.isee.nagoya-u.ac.jp/simulation/meeting27.pdf>に掲載されています。詳しい分科会活動および関連情報は<https://cidas.isee.nagoya-u.ac.jp/simulation/>をご覧ください。

STEシミュレーション研究会：次世代太陽地球惑星系探査に向けて

日時：2024年12月23日（月）～12月25日（水）

場所：東北大学青葉山北キャンパス・理学合同C青葉サイエンスホールとZoomによるハイブリッド開催

本研究集会は、名古屋大学 宇宙地球環境研究所と東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻 太陽惑星空間系の主催で実施されました。次世代太陽地球惑星系探査に向けて必要となるシミュレーション技法をテーマとして、理学・工学の諸分野で極端パラメータを対象とした計算機シミュレーション研究を推進している専門家による招待講演を企画して、惑星圏研究に応用可能性を探る場を提供しました。非散逸かつ安定・高忠実な圧縮性流体スキームや、メソ・マイクロスケールの極端気象のシミュレーションについてご講演いただき、技術交流と情報交換を行いました。東北大学サイバーサイエンスセンターAOBA-Sの特徴と活用事例についての招待講演も企画し、研究会二日目には東北大学サイバーサイエンスセンターのご協力をいただいてAOBA-Sの見学会を実施しました。その他、宇宙プラズマや磁気圏・電離圏環境のシ

ミュレーション研究の最新成果の報告や、新数値解法の開発研究についての報告、近年主流となりつつあるメニーコア型計算プロセッサに対応した高性能プラズマ計算手法の紹介などもあり、3日間で15件の発表および延べ79名の参加がありました。本研究会のプログラムは<https://cidas.isee.nagoya-u.ac.jp/simulation/meeting2024/>に公開されています。

若手アウトリーチ活動 STEPLE 令和6年度活動報告

吹澤瑞貴

若手アウトリーチ活動 STEPLE では、大学院生を含む若手学会員有志が出前授業や体験型イベントの開催、他団体主催のアウトリーチイベントへの参加・出展を通して、一般の方々に地球惑星科学の面白さを伝える取り組みを行っています。学生や若手研究者が積極的にアウトリーチ活動に関与できるように、学会のアウトリーチ活動を活性化させたいという思いから、「手に届く宇宙☆地球科学レクチャー」を合言葉に活動しています。2010年から始まった当団体は学会アウトリーチ部会に所属しており、毎年様々なイベントの企画・開催・出展等を行ってきました (https://sgepss.org/steple/demae_general/demae_past/)。

本年度は、オンライン動画共有プラットフォーム YouTube での活動を中心に13件の活動を行いました。以下に各活動の詳細を記します。

(1) 角田市宇宙教室「ラジオを作成し電波星を探そう！」「惑星探査を体験しよう！」

日程：2024年6月23日 10:00～12:00 / 13:30～15:30

講演実施者：角田市地域振興公社・角田市スペースタワー・コスモハウス

場所：角田市スペースタワー・コスモハウス（宮城県）

参加人数：14名 + 保護者約20名

角田市地域振興公社・角田市スペースタワー・コスモハウス主催の宇宙教室にて、出前授業を行いました。本出前授業では「一日中☆宇宙を学ぼう」をテーマに、「ラジオ工作」と「火星ローバー探査」の2つを行いました。「ラジオ工作」では、

簡易的な AM ラジオを一人ずつに作ってもらいました。自作した受信機で「電波星」や実際の AM ラジオ電波からの音が聞こえると、参加した子どもたちから歓喜の声が上がり、保護者の方にも嬉しそうに共有していました。また、屋内外での聞こえ方の違いや、受信機を傾けたときの音の明瞭さの変化にも気づいた参加者もいました。「火星ローバー探査」では、火星地形を模した地形に熱源を埋め込み、火星探査車（ローバー）に見立てたラジコンを交互に操作してもらいました。初対面の子どもたち同士でも、満遍なく探査するために役割分担し、得られた温度分布から太陽の向きや地形の影響を真剣に考察している様子が、非常に印象的でした。

(2) 川越市主催 男女共同参画市民フォーラム「地球と宇宙の「波」のふしぎ～おもしろ工作実験とオーロラのお話～」

日程：2024年6月29日 9:30～11:30

講演実施者：川越市男女共同参画課

場所：ウェスタ川越（埼玉県）

参加人数：小学1～6年生の計20名 + 保護者18名

川越市男女共同参画課にご依頼を頂き、男女共同参画市民フォーラムにて出前授業を行いました。前半は、講演者各自のこれまでの進路選択や現在の研究活動などのご紹介からスタートし、クイズを交えながらオーロラに関する講演を行いました。後半は、オーロラ現象を理解する上でも重要な「波」の基本的な性質を体感してもらうため、ストローを用いたウェーブマシンの工作・実験を行いました。どのお子さんも、真剣にお話を聞いてくれ、時間が足りないほどたくさんの質問をしてくれました。

(3) 女子中高生夏の学校2023 「身近な宇宙を知ろう！～個性豊かな太陽系天体～」

日程：2024年8月11日 13:00～14:20（ポスター）、14:30～16:00（進路・キャリア相談カフェ）

講演実施者：NPO 法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト

場所：国立女性教育会館（埼玉県）

参加人数：高校生7名（実験・実習）、約30名（ポスター）

NPO 法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト（GSTEM-CPP）主催「女子中高生夏の学校

2024」において実施されたイベントの一つ、「ポスター・キャリア相談」に参加しました。様々な分野に興味がある女子中高生に対して、SGEPSS とはどのような学会かを説明しました。今回のポスターは、例年とは異なり、太陽系内を飛行する主な探査機と参加者の研究対象（オーロラ/火星/木星ガリレオ衛星）に焦点を当てて作成しました。オーロラに関しては、オーロラ発生装置を用い、その発光プロセスと原理を実感してもらいながら紹介しました。参加者の皆さんからは、オーロラについての質問を多くいただくとともに、火星や漠然とした宇宙への質問、進路選択や理系進学についての質問や相談など様々ないただきました。参加者の中で特に SGEPSS に興味を持っていただいた方には、将来進路選択する際に役立ててもらえるように SGEPSS が対象とする研究テーマに取り組める大学一覧表を配布しました。

(4) 都立本所高校 出前授業 「宇宙を調べること 世界を調べること」

日程：2024年7月10日、9月11日、25日

講演実施者：都立本所高校

場所：都立本所高校（東京都）

参加人数：高校1年生22名

都立本所高校ではいくつかのテーマについて専門の講師に授業を依頼し、生徒は関心を持った授業を受講し、今後の生徒の探究活動の切り口とする取り組みを行っています。今回は自然科学分野の担当として依頼を受け STEPLE から講師を1名派遣し、自然科学探究の意義とその具体的な手法についての授業を7月10日に行いました。前半では自然科学探究の意義と面白さについて具体的な例を述べながら説明し、これから探究活動を始めるうえでの基礎を身につけてもらいました。後半は実際に講師が過去に実施したオーロラ発生に伴う高エネルギー電子降下に関する研究活動例を紹介し、今後の探究活動の参考とするとともに、研究分野の最先端の話題にも触れてもらいました。授業の最後には夏休みの課題を出し、自分の興味のある自然科学分野のテーマに対して簡単な調査と調査結果の報告をしてもらいました。

夏休み明けの9月にも2回授業を行いました。最初の回では研究をまとめることに重きを置いた授業を行い、生徒と個別にやり取りしながら発表資料を準備してもらいました。2回目の授業では準備した発表資料を用いて一人ずつ発表を行って

もらいました。本授業を通して、自分の興味を持ったテーマについて調査し、資料にまとめて発表するという自然科学探究の基礎を体感でき、今後の探究活動の参考となったのではないかと思います。

(5) - (10) VTuber 星見まどか×STEPLE コラボ配信 「研究室大解剖」

惑星科学者 VTuber として YouTube でのライブ配信を中心に活動している星見まどか氏に生配信のゲストとして STEPLE メンバーを呼んで頂き、地球物理や惑星関連の研究ができる大学・研究室の紹介を行いました。第0回(6/30)では、SGEPSS とはどのような学会か、どのような研究領域をカバーしているかの概要を説明し、第1回(7/15)では東北大学、第2回(8/29)では京都大学、第3回(9/21)では国立極地研究所、第4回(11/15)では名古屋大学、第5回(3/4)では九州大学の研究室の紹介を行いました。生配信は20時または21時に開始し、約2時間の配信を行いました。同時視聴者数は200名程度で、2024年4月時点での総再生回数は各回2000～2500回程度です。

(11) - (13) VTuber 星見まどか×STEPLE コラボ配信 「宇宙雑談」

惑星科学者 VTuber 星見まどか氏とのコラボ企画として、惑星の見頃に合わせて「宇宙雑談」と題し、その惑星を研究している先生と大学院生が星見さんと雑談する配信を行いました。これまで、木星(12/9)、火星(1/7)、金星(2/20)について配信を行いました。同時視聴者数は200名程度で、2024年4月時点での総再生回数は各回1600～2500回程度です。木星については東北大学の土屋史紀会員、火星については東北大学(現・慶應義塾大学)の堺正太朗会員、金星については JAXA 宇宙科学研究所の佐藤毅彦会員からそれぞれの惑星の魅力と最新の研究についてお話を頂きました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

また、上記の13件に加えて、SGEPSS2024 秋季年会の一般公開イベントで行われた星見まどか氏とのコラボ企画にて STEPLE メンバーが登壇者、機材班、まとめ役として参画しました。今後は現地参加型イベントの活動も継続しつつ、YouTube のようなオンラインツールを活用した活動も行っていくことで、より多くの人達に SGEPSS について認知

して頂けるよう活動を続けていきたいと考えています。

第33回衛星設計コンテスト 参加登録・作品募集のお知らせ

本年も衛星設計コンテストの参加登録・作品募集が開始されました。本コンテストは、本学会を含む9つの学協会や機関が共同で主催するもので、今回で第33回となります。大学院、大学、高等専門学校、専門学校、高等学校の学生・生徒を対象として、宇宙に関わる基礎・応用研究を積極化する機会を提供し、あわせて宇宙開発のすそ野の拡大に寄与しようとするものです。学生の自由な発想のもと、一連の衛星開発の中でも重要な位置づけを占める、構想の立ち上げから設計に至る部分のスキルアップを図るべく、小型衛星をはじめとする様々な宇宙ミッションのコンセプト、アイデア、設計構想などを広く募集し、審査の上、優秀な作品を寄せたグループ（または個人）を表彰します。特に「設計の部」では、構想の立ち上げから製作実現に至る“確かな物づくり”に対するスキルアップを期待します。さらに本コンテストは、衛星開発の専門家による教育の場でもあります。この観点から、学生の衛星設計への挑戦的な応募に対しては適切な指導を行い、再挑戦も期待しています。

スケジュールは下記の予定となっております。奮ってご参加ください。

4月1日（火）～5月12日（月）17時：参加登録受付

7月7日（月）12時：応募作品提出期限

7月中旬～8月中旬：第一次審査（書類審査）

9月上旬：第一次審査結果通知

11月22日（土）：最終審査会（発表会形式審査、連合会館 大会議室（東京都）、ハイブリッド開催）

詳細や最新情報については、ウェブサイト (<http://satcon.jp/contest/>) をご覧ください。

（実行委員：中村卓司、中溝葵、

企画委員：高田拓、審査委員：浅村和史）

訃報

高橋芳幸 会員

（神戸大学）

2025年4月30日 御逝去（49歳）

謹んでお悔やみ申し上げます。

学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦/問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月末日
田中館賞	会長	8月末日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月末日
学会特別表彰	会長	2月末日
SGEPSS フロンティア賞	SGEPSS フロンティア賞候補者推薦委員長	12月末日
SGEPSS 論文賞	SGEPSS 論文賞選考委員長	2月14日
学生発表賞 (オーロラメダル)	推薦なし/問い合わせは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会	2月、7月頃
国際学術研究集会	運営委員会	年度末頃

SGEPSS Calendar

25-05-25~30	日本地球惑星科学連合 2025 年大会 (JpGU2025) (千葉)
25-07-27~08-01	Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 22nd Annual Meeting (Singapore)
25-11-23~27	地球電磁気・地球惑星圏学会 2025 年秋季年会 (神戸)
25-12-15~19	AGU Fall Meeting 2025 (New Orleans, USA)
26-5-3~8	EGU General Assembly 2026 (Vienna, Austria)

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

(有)テラテクニカ(2口)

〒 208-0022

東京都武蔵村山市榎3丁目25番地1

TEL: 042-516-9762

FAX: 042-516-9763

URL: <http://www.tierra.co.jp/>

三菱重工(株)(2口)

防衛・宇宙セグメント

〒 485-8561

愛知県小牧市東田中1200

TEL: 0568-79-2113

URL: <http://www.mhi.co.jp>

産業用製品メーカー・代理店比較のMetoree

(ZAZA株式会社)

〒470-0203

愛知県みよし市三好丘旭3-1-17

TEL: 050-3561-7257

URL: <https://metoree.com/>

富士通(株)

〒 261-8588

千葉市美浜区中瀬1-9-3

富士通(株)幕張システムラボラトリ

TEL: 043-299-3246

FAX: 043-299-3011

URL: <http://jp.fujitsu.com/>

明星電気(株)宇宙防衛事業部

〒 372-8585

群馬県伊勢崎市長沼町2223

TEL: 0270-32-1113

FAX: 0270-32-0988

URL: <http://www.meisei.co.jp/>

カクタス・コミュニケーションズ(株)

〒 101-0061

東京都千代田区三崎町2-4-1

TUG-ビル 4F

TEL: 0120-50-2987

FAX: 03-4496-4557

URL: <https://www.editage.jp/>

日鉄鉦コンサルタント(株)

〒 108-0014

東京都港区芝4丁目2-3 NMF芝ビル 3F

TEL: 03-6414-2766

FAX: 03-6414-2772

URL: <http://www.nmconsults.co.jp/>

NV5 Geospatial 株式会社

東京オフィス

〒113-0033

東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル 3F

TEL: 03-6801-6147 / FAX: 03-6801-6148

大阪オフィス

〒550-0001

大阪市西区土佐堀1-1-23

コウダイ肥後橋ビル 5F

TEL: 06-6441-0019 / FAX: 06-6441-0020

E-mail: sales_jp@nv5.com

URL:

<https://www.nv5geospatialsoftware.co.jp/>

次ページへ

賛助会員リスト

シュプリンガー・ジャパン(株)

〒105-6005

東京都港区虎ノ門4-3-1

城山トラストタワー 5階

TEL: 03-4533-8263 (地球科学分野・直通)

FAX: 03-4533-8081

URL: <http://www.springer.com/>

研究支援エナゴ

〒101-0021

東京都千代田区外神田2-14-10

第2電波ビル 402A

TEL: 03-3525-8001

FAX: 03-3525-8002

URL: <https://www.enago.jp/>

株式会社NTシステムデザイン

〒206-0803

東京都稲城市向陽台5-9-7-203

TEL: 042-379-9813

FAX: 042-379-9814

E-mail: info@nt-sys.jp

URL: <http://www.nt-sys.jp/>

総合電磁気計測テクノロジー

磁力計

フラックスゲート
プロトン
オーバーハウザー
ポタシウム
インダクション

火山

衛星携帯データ転送
太陽電池システム
無線LAN

磁気試験

磁気モーメント計測システム
磁気シールド

海洋

海底電位磁力計(OBEM)
海底電磁探査装置
曳航式オーバーハウザー

宇宙

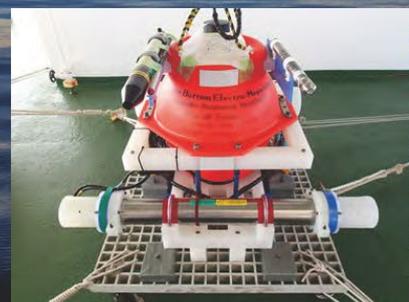
磁気トルカー
小型衛星地磁気姿勢計
太陽センサ

航空

航空機用ポタシウム
AUV用フラックスゲート
ポタシウム磁力計搭載ドローン

地下電磁探査

TDEM測定器
比抵抗測定器
全磁力サーベイ



有限会社テラテクニカ

〒208-0022 東京都武蔵村山市榎 3-25-1
TEL:042-516-9762 FAX:042-516-9763
カナダGEM Systems社 日本代理店

<http://www.tierra.co.jp/>

この星に、たしかな未来を

— OUR TECHNOLOGIES, YOUR TOMORROW —

私たち三菱重工は、次の世代の暮らしと、そこにある幸福を想い、人々に感動を与えるような技術と、ものづくりへの情熱によって、たしかな未来を提供していくことを目指します。そのために私たちは、これまで培ってきた技術を磨くとともに、新たな発想で様々な技術を融合させるなど、さらなる価値提供を追求し、地球的な視野で人類の課題の解決と夢の実現に取り組みます。



三菱重工業株式会社 www.mhi.co.jp

〒108-8215 東京都港区港南2-16-5

Tel 03-6716-3111

 **三菱重工**

この星に、たしかな未来を



産業用製品を探すなら

Metoree

産業用製品検索サービス メトリー

カテゴリ数
6,000

掲載企業数
70,000

FUJITSU

未来はいつも、
誰かの想いからはじまる。

世界に、未来への確信を届けたい。
社会課題を解決する「Fujitsu Uvance」から。

Fujitsu Uvanceの取り組みについてはコチラ



Fujitsu
UVance

革新的衛星技術実証2号機搭載
高機能CubeSat用OBC

～最先端のCOTSで安価・高性能・省スペースを実現し、心臓部といえるOBCの開発に成功～

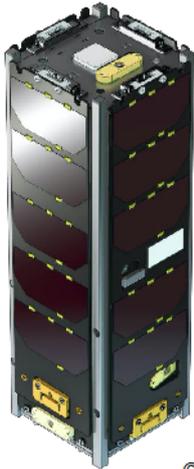
▶ベトナム国家宇宙センター（VNSC）との共同研究の下、「NanoDragon（ナノドラゴン）」という、3Uサイズのキューブサットに弊社の民生部品を活用した安価で高性能なオンボードコンピュータ（OBC）を軌道上実証を実施。

▶民生品を活用し、コストと信頼性のバランスのよい、ユーザの要求に柔軟に対応可能なCubeSat用オンボードコンピュータ（OBC）を開発

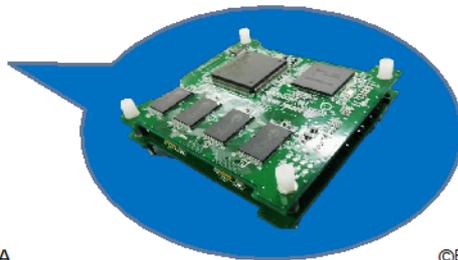
▶キューブサットや超小型衛星に関する国際協力事業を行う上でのモデルケースとしての確立を目指す

▶革新的衛星技術実証2号機/イプシロンロケット5号機にて打ち上げ

▶COTS(Commercial Off-The-Shelf 民生品)を活用したCubeSat用OBCで処理能力は160MIPSを実現



©JAXA



©明星電気

高機能CubeSat用OBC 諸元表

項目	性能
サイズ	96 mm × 90 mm × 21 mm (基板表面部品含む)
質量	110 g Typ.

日本の宇宙開発草創期から参画し、現在までに約3,000個もの観測機器を宇宙に送り出しています。

明星電気は、独自の技術、Sensing & Communication — 「計る技術」と「伝える技術」をコア技術に、国内外の宇宙開発に貢献しています。

宇宙防衛事業部 営業部 東京都江東区豊洲三丁目1番1号 TEL: 03-6204-8252 MAIL: aerospace@meisei.co.jp https://www.meisei.co.jp/ 採用情報 随時更新中



editage

エディテージは研究者の総合支援ブランドとして、英文校正だけではなく科学イラスト制作や研究プロモーション、研究DXのためのAIツールの提供を通じて日本の研究を総合的にサポートします。

学会限定！お得な **10% 割引** クーポンつきサイト

<https://www.editage.jp/co/sgepss>



- ・割引は本体価格にのみ適用
- ・専門家サービスにのみ利用可
- ・他クーポンとの併用不可

科学イラスト も エディテージ

グラフィカルアブストラクト制作

- ・4営業日以内に初稿を納品
- ・42,900円（税込、2Dの場合）



学会ポスター制作サービス・
研究発表用パワーポイント制作

- ・5営業日以内に初稿を納品
- ・95,000円（税込）



Web版 Wordアドイン版
無料 プランあり

数百万種の出版済み学術論文を学習させた
人間の校正者に
極めて近いAIを搭載

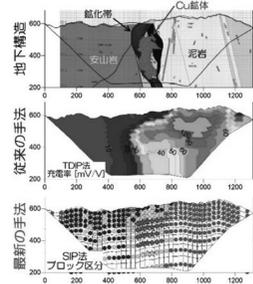
Paperpal

お問い合わせ：エディテージ ☎0120-50-2987 ✉submissions@editage.com
エディテージはカクタス・コミュニケーションズ株式会社のサービスブランドです



MT法 現場から解析まで長年のノウハウ
MT法電磁探査は、自然の電磁場信号を用いて行なう比抵抗探査手法です。他の比抵抗探査手法よりも探査深度が深く、地下数十kmまで探査が可能です。このため、地殻構造調査や地熱構造調査に多くの実績があります。また、測定周波数の高いAMT (Audio Frequency MT) 法探査を用いることにより、地下1km程度までの詳細な探査も可能で、トンネル掘削前の土木地質調査や断層調査への実績があります。測定システムは可搬性に優れ、騒音振動はありません。

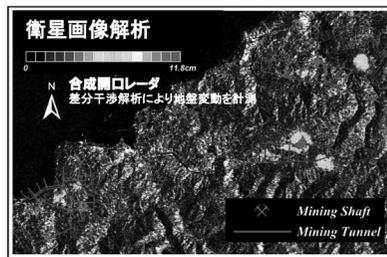
SIP法



SIP法は、地下の周波数特性を調べる電気探査手法です。通常のTDIP法よりノイズ耐性が高く、得られるパラメータも多いことから、次世代の電気探査法として注目を集めています。含有物に依存する周波数特性を測定することで、今まで以上に詳細に岩種を区別することが可能になります。



ジオレーダ
ジオレーダはミリ波あるいはマイクロ波帯の電波を照射し、火山や地滑り斜面、鉱山切羽などで反射した成分を受信します。受信記録に差分干渉解析を適用することで、観測ターゲットの微小変位を常時モニタリングすることができます。レーダアンテナは水平及び垂直方向に回転する機構を備えていますので、面的なデータ集録が可能となります。



衛星画像解析
人工衛星に搭載された光学センサーやレーダセンサーは、数m程度の高い空間分解能で、数十～数百km四方の広範囲の地表情報を記録し、画像化します。リモートセンシングでは、衛星画像を解析することにより、地球上のあらゆる地域の情報を遠隔的に収集することが可能で、人工衛星が周期的に地球を周回しますので、地表状況の定常監視に応用できます。



空中電磁探査
効率的に高密度な比抵抗分布
空中物理探査は、固定翼機やヘリコプターを用いて行う物理探査手法です。空中から調査を行うため、地表からアクセスが困難な地区の情報を容易に得ることができ、1日に数百kmにおよぶデータを取得することが可能です。測定項目には、磁場強度、重力、放射能強度および電磁場強度があり、お客様のニーズに合わせた測定項目をご提案いたします。

日鉄鉱コンサルタント株式会社

ホームページ: <http://www.nmconsults.co.jp/>
E-mail: geophy@nmconsults.co.jp (物理探査部)
東京都港区芝4-2-3 NMF芝ビル 3F Tel:03-6414-2766 Fax:03-6414-2772

学会からのお知らせ



Earth, Planets and Space

Open Access for the Geosciences Impact Factor (2023) : 3.0

特集号の受付

EPS では、特集号の提案を随時受け付けております。研究プロジェクトの最新の成果の発表の場としてご活用ください。

- ✓ International Geomagnetic Reference Field - The Fourteenth Generation
投稿締切: 1 July 2025
- ✓ Studies on Electromagnetic Induction in the Earth and Planetary Bodies: Recent Achievements, Advances, and Future Directions
投稿締切: 30 June 2025

2025 年 APC: \$1324.3 (会員価格)

※投稿時・受理時に所定の手続きが必要です。

賛助会員の募集

SGEPSS の事業は、賛助会員の皆様のサポートを受けております。賛助会員の皆様には、以下の広告サービスを行っておりますので、入会についてご検討ください。

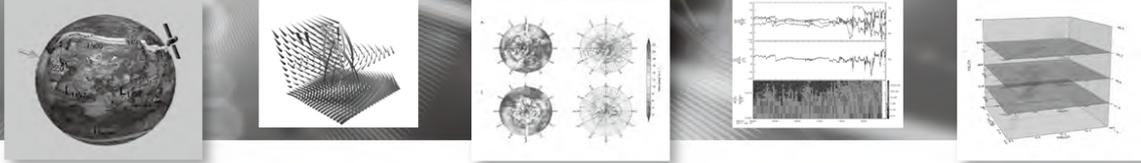
- ✓ [学会 Web トップページ](#)でのロゴマーク掲載
- ✓ [賛助会員様一覧ページ](#)への情報掲載
- ✓ 定期刊行の会報における広告記事掲載



IDL

Discover What's In Your Data.

電磁圏・プラズマ研究分野でのスタンダードソフトウェア



IDL は、コロラド大学大気宇宙物理学研究所出身の Dr. David Stern により、より効率的にデータ処理から可視化までを、クロスプラットフォーム OS 上で実行出来るように研究者視点から開発されております。

現在、地球電磁気・地球惑星圏学会の皆様は IDL を あらせ衛星データ処理、TDASや SuperDARN データ処理などで多くご利用されていると思います。

最新の IDL では対話形式だけではなく、開発環境やプログラミング自体も大幅に改良され、表示やフォントも綺麗で使いやすくなっております。

【最新版 IDL 無償評価版お問合せください】

NV5 GEOSPATIAL

NV5 Geospatial株式会社

■ 本社/東京オフィス

〒113-0033 東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル3F
TEL : 03-6801-6147 / FAX : 03-6801-6148

■ 大阪オフィス

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-1-23 コウダイ肥後橋ビル5F
TEL : 06-6441-0019 / FAX : 06-6441-0020

URL > <https://www.nv5geospatialsoftware.co.jp> MAIL > sales_jp@NV5.com



link.springer.com

Springer eBook 地球科学・天文学関連コンテンツ

研究にも、教育にも最適なイーブック・コレクション

- 分野別、出版年別にパッケージ化した買い切り商品
- 広範な領域を網羅
- 利用価値の高いレファレンスや、ブックシリーズ、テキスト、モノグラフを含む幅広いコレクション
- 一冊まるごと、章ごとでもダウンロード可能
- 同時アクセス無制限、プリントアウト可能で教材にも最適。学生の教材費を軽減。
- 時、場所、デバイスを選ばず利用でき、移動の多い多忙な研究者に最適

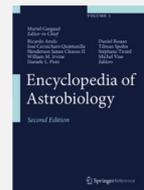
分野	累計出版点数	2017年予定出版点数
地球科学・環境科学	5,700点	390点
物理学・天文学	10,000点	430点

ご所属の機関で使えるeBookをご存じですか？

利用可能コンテンツ、タイトルリスト、お見積りなどご希望の方はお問合せください。

シュプリンガー・ネイチャー インスティテューショナル・マーケティング

• Tel: 03-4533-8091 • Fax: 03-4533-8081 • Email: jpmarket@springernature.com



springer.com

Part of **SPRINGER NATURE**

研究論文に特化した英文校正で論文の英語を磨き上げ、国際誌への投稿をサポート。

エナゴの選ばれる理由

1. **2段階チェック**
「分野の専門家」と「英語の専門家」
2名によるチェック。
2. **専門分野の合致**
各分野で**博士・修士号**を取得した
専門家が校正。
3. **査読対応込みの再校正**
投稿後の修正と加筆に**何度でも再校正**を行う「査読対応オプション」。

1単語あたり5.5円～。2名体制の校正料金では業界最安値レベル。

分野の専門家最大5名による日英・英日翻訳で、研究成果の世界への発信をサポート。

ユレイタスの選ばれる理由

1. **分野に合致した翻訳者**
1117の専門分野の中から、原稿の内容と最も合致する翻訳者を選びます。
2. **博士・修士による翻訳**
平均**10.4年**の学術論文翻訳の経験
を有するスペシャリストです。
3. **回数無制限の修正保証**
何度でも翻訳の手直しを行う「あんしん保証」(日英翻訳レベル3)。

学会会員様限定割引コード **GKJP108AD** 有効期限：2024年3月31日

見積りフォームのスペシャルコード欄へのご入力で新規割引 **20%OFF**
(英文校正サービスの割引上限額：2,500円)

研究支援エナゴ:

論文翻訳・学術翻訳ユレイタス:



www.enago.jp

www.ulatus.jp



メールには24時間対応
request@enago.com
request@ulatus.com



電話受付: 月 - 金 10:00~19:00
03-4580-9713
平日 10:00~20:00 土 13:00~21:00 日 10:30~19:30
03-4580-9713

株式会社 NTシステムデザイン

地球物理学・地震火山研究向け
測定器開発・製造・販売

オモロイ研究をしている人と
オモロイ仕事をしたい!



www.nt-sys.jp

facebook.com/ntsysd



MT観測用 電場観測装置
ELOG-DUAL

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 中村卓司 〒190-8518 東京都立川市緑町10-3 国立極地研究所
TEL: 042-512-0640 E-mail: president-office@sgepss.org

総務 横山竜宏 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所
TEL: 0774-38-3810 FAX: 0774-31-8463 E-mail: soumu@sgepss.org

田中良昌 〒190-8518 東京都立川市緑町10-3 国立極地研究所
TEL: 042-512-9036 FAX: 042-512-9079 E-mail: soumu@sgepss.org

広報 (会報担当) 柿並義宏 〒069-8585 北海道江別市西野幌59-2
北海道情報大学 情報メディア学部
TEL: 011-385-4411 FAX: 011-384-0134

齋藤武士 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
信州大学 大学院学術研究院(理学系)
TEL: 0263-37-2484 FAX: 0263-37-2506

市來雅啓 〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6
東北大学 大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター
TEL: 022-795-3949 FAX: 022-264-3292

会報に関するお問い合わせは、kaiho@sgepss.orgまでお願いします。

運営委員会(事務局) 〒650-0034 神戸市中央区京町83番地 三宮センチュリービル 3階
(株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局
TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgepss@pac.ne.jp